

# あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター  
住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1  
愛知県東大手庁舎 1階  
TEL：052-954-6722  
FAX：052-954-6993  
開館：月～金 10～17時



## タイトル「テレビ塔からの一枚」



コメント：ぼくは写真を撮るのが好きです。買ってもらったカメラで、初めてとった日の写真です。

クイズ「これはどこでしょう？」

たくと 10才（小学4年生）

### <表紙に掲載する子どもの描いた絵を募集しています>

あおぞらの表紙の絵を描いてみませんか？興味があればご連絡ください。

①絵のタイトル ②絵の説明（30字程度）③掲載するお名前 ④学年（年齢）⑤保護者の方の連絡先（氏名・メールアドレスまたは電話番号）を明記のうえ、メールまたはFAXにてお送りください。

### <編集委員募集のお知らせ>

月に一度発行している「あおぞら」は、愛知県被災者支援センターのスタッフとボランティアの方がたで協力をして発行しています。あなたも編集委員になってみませんか？

### <発送作業のボランティア募集>

定期便発送作業のボランティアに参加してみませんか？

1月10日便の予定			1月25日便の予定			お問合せ・お申込み 愛知県被災者支援センター TEL：052-954-6722（渡邊）
封入作業	1月10日（火）	午後	封入作業	1月24日（火）	午後	
発送作業	1月11日（水）	午前	発送作業	1月25日（水）	午前	

## インタビュー

第5回（11月5日）の豊橋市で開催した「これからの暮らしをいっしょに考えよう」では、既に帰還された方を囲んでざっくばらんにお話をお聞きしようということになりました。今年3月に南相馬市に帰還された高橋貴子さんご家族、ご夫婦・娘さんの3名にお忙しい中ご参加されました。後日お電話にて、座談会の様子についてお話をお聞きしたので、問答形式でご報告します。

Q1. 帰還を決められた理由は何ですか？

A1. 1年前から娘が今年の4月の高校進学を南相馬市で実現したいと望んでいました。いつか故郷に帰りたいという思いがあったので、家族全員一致で、誰の反対もなく決定しました。

Q2. 名古屋にいらっしゃった期間はどれくらいでしたか？

A2. 2011年3月27日～2016年3月7日で、丸5年間でした。思い起こせば、あっという間でした。

Q3. 帰還された時は、時間が経過したことによる戸惑いはありましたか？

A3. いいえ。南相馬市に戻り、夫婦ともに震災前と同じ職場に戻れたのが良かったと思います。私は病院勤務ですが、その職場には想像したより帰還者が多く、偏見もありませんでした。また病院には「仮設に暮らす人の支援チーム」の活動もあり、違和感なく溶け込めました。夫は建設ラッシュの中、電気工事の仕事で忙しく働いています。いずれにしても毎日の生活に追われて日常が過ぎていきます。特に当時のことを振り返ることも少なくなってきました。

Q4. 南相馬市に帰還された後、ご自分の家を建てられていますか、建築費は高いですか？

A4. すごく高いです。大工さんに直接頼むときの話ですが、被災前は建坪40万円台ほどでしたが、今は60万円～です。ハウスメーカーに依頼すると130万円ほどかかるそうです。この値段は当分続きそうです。

Q5. 今回名古屋に来てもらいましたが、会いたい人に会えましたか？

A5. お陰様で会えました。こちらにいた時に勤めていた職場の人たちとは昼食会を、県営住宅に住んでいた時に仲の良かったご近所の方とは一緒に夕食会をして旧交を温めました。

Q6. 豊橋市での「帰還者を囲んでの座談会コーナー」はどんな雰囲気でしたか？

A6. こちらで経験した普通の交流会と同じ雰囲気です。他愛もないお話で花が咲きました。福島では震災が少し色あせていることもあり（いい意味で）、当時のことを振り返ったり、今の心の動きを遠慮せずに話せたことが私にとってもストレス発散になりました。また、私と娘はビーズを使ったアクセサリ作りにも挑戦しました。特に娘が喜んでいました。夫はふくしま連携復興センターの担当者との良い雰囲気でお話していました。来年3月に帰還される予定のNさんとは、帰ったら連絡を取り合おうと約束しました。

Q7. 南相馬市では食べ物は特に気にされていますか？

A7. 本当は気になりますが、お店に出回っているものは測定してあるので「大丈夫」ということにしています。他県から取り寄せるという方法もありますが、財政的に買えないという理由もあります。

（あおぞら編集委員 瀧川裕康）

前月号に引き続き、会場で相談を担当して下さった方々をご紹介します。

## いわて内陸避難者支援センター



<細田 玲 氏>

愛知県被災者支援センターの相談交流会「これからの暮らしをいっしょに考えよう」に相談員として参加した「いわて内陸避難者支援センター」の細田玲です。

岩手県より避難している方々から、「避難元の市町村へ戻りたいが情報は少ない」「高齢でもあり住宅再建は難しい」「愛知県被災者支援センターの皆様の支援もありこのまま愛知県に定住を希望する」などのご相談が寄せられました。

「いわて内陸避難者支援センター」は東日本大震災で岩手県内陸や県外に避難し、今後の生活再建を決めかねている方に対し、安心して暮らせる住まいの確保に向け、相談・支援を行う機関です。生活再建に必要な各種制度の紹介や福祉サービス利用に向けてのお手伝いも行います。被災者の皆さまに寄りそった支援活動を行ってまいりますので、まずはお気軽にご相談ください。

電話番号 (019-601-7640)

## 一般社団法人 ふくしま連携復興センター (ふくしまの今とつながる相談室 toiro)



<佐藤 宏美 氏>

福島県内の団体ということもあり、福島県内の様子についての相談を多く受けました。例えば、〇〇市に戻る予定をしているけれど、学校や幼稚園の様子はどうなんだろう？住宅の空きはあるのか？仕事は見つかるか？などといった相談が寄せられます。生活に根ざしたご相談に対して、福島県内各地で地域の情報を生活者目線でお伝えできる窓口へおつなぎいたします。ぜひお気軽にお問い合わせください。

相談専用番号 (024-573-2731 月・水・金 10時~17時)

## 愛知県保険医協会・名南ふれあい病院



<早川 純午 氏>

9月24日(土)と10月29日(土)の2回、相談事を伺いました。やはり、福島での甲状腺ガンの発生をどう見たらいいのか、甲状腺のう胞の質問も当然あります。世界での報告も含め、私の考えをお話しして一緒に考えています。

また、ボランティアの方が避難者になる場合もありますし、時間があるときには相談をお受けしています。相談会は支援する人とされる人ではなく、一緒に考えるということが当たり前のことなので、そこに参加される皆さんの悩みが共有できればと思います、やっています。これからも、気軽に話しに来てください。

## 交流会（ふるさと祭りいも煮会）



<バンド演奏を楽しむ>

この時期恒例の「ふるさと祭りいも煮会」が11月20日にありました。いつもは、子どもを連れて参加していますが、今回は、夫婦で参加しました。いろいろな事情でふるさとに戻った方や、被災者支援センターからの情報を見聞きするたびに、年々長引く状況を実感しています。ここに来れば、温かい芋煮を食べながら、愛知県で生活されている方々と近況が話せるので、この場を大切にしています。今回も初めて話す方がいて、宮城県で昔私が住んでいた場所に近かったので、お祭りの話などをして懐かく思いました。芋煮会に来ている他の子どもたちも成長していて、しみじみと年月を感じました。食事をしながら、普段はできない放射能の話題や、今後の活動や衣食住のことを語りました。

他のお母さんに、学校での子どもの様子や先生の対応など、深い話も聞くことができました。最近、ニュースで避難者の子どものいじめに対しての学校の冷たい対応や教師の



<マナマナさんの指導でストレッチヨガ>



<いつもの浪江焼きそば、食べ物はいつも豊富>

責任について考えさせられたばかりでした。愛知県でも同様のことがないのか気になっていました。

おいしい食事の後は、ステージでマナマナさんによるコンテンポラリーダンスを鑑賞しました。そのまま、会場にいる人みんなで見よう見まねでダンスをしました。音楽に合わせて、歌詞の意味を表現する感じが心地良かったです。フラダンスやバレエ、ヨガの要素もあり、体全体で表現するのが面白かったです。みなさん素人ですが、お互いを褒めあい、連帯感が生まれ、一つのグループになりました。

楽しかった芋煮会が終わり、その2日後、福島で震度5弱の地震や津波警報がありました。あの人は、大丈夫かしらと思いを馳せる1日となりました。未来に向けての前進と、新たな3.11が起こりませんようにと祈っています。

(ペンネーム A.O)



<みんなでダンスを踊る>

## 支援団体紹介（人形劇団むすび座）

人形劇団むすび座は、1967年、東海地方で初のプロの人形劇団として名古屋に誕生しました。「子どもと子どもをむすびます」「人と人とをむすびます」を合言葉に、心の糧となる人形劇を幼稚園・保育園、小学校など子どもたちの生活に近い場で上演してきました。創立当初2名だった劇団員は、現在41名になり、公演活動は東海地方を中心に全国に広がり、年間1,000回以上、17万人以上の皆さんにご覧いただいています。また、大人向けの人形劇の創作、海外公演にも力を入れ、人形劇の一層の普及を目指して、活動しています。

東日本大震災後、被災地から遠く離れたこの地で、文化団体として何か支援できることはないか思案していた頃、愛知県被災者支援センターを知りました。この震災で被災され、愛知県に避難された方が600世帯ほどいらっしゃるとうかがいました。その方々に少しでも楽しい時間を過ごしていただきたい、笑顔になってほしいと願い、毎年開催しているむすび座主催のファミリー向け人形劇「夏休みこども劇場」と「冬休み人形劇場」へのご招待「東日本大震災復興応援企画」を計画いたしました。

2012年から始まったこの企画は、この冬で10回目となり、約700の方にご覧いただき、親子で楽しい時間を過ごしていただい



<だっただっただのおばあさん>

ます。今後も続けていきたいと思っておりますので、皆様ぜひご家族でお越しください。

また、2011年に宮城県10か所、2012年は岩手県、福島県、宮城県、山形県の各地で12か所、2015年に岩手県2か所で被災地支援公演を開催しました。損保ジャパン日本興亜、子ども劇場・おやこ劇場、舞台芸術創造団体の会などの協力で、人形劇を届けることができました。今後も機会をみつけて、支援活動を続けていきたいと思っております。

2017年は、劇団創立50周年。8月24日から26日に名古屋市文化振興事業団・名古屋市緑文化小劇場との共催で、記念公演「チト〜みどりのゆびを持つ少年〜」を上演します。ご期待ください。



<こぎつねコンとこだぬきポン>

### 人形劇団むすび座

〒459-8001 名古屋市緑区大高町字川添 86

TEL : 052-623-2374 FAX : 052-623-9520 E-mail : musubiza@mc.ccnw.ne.jp

主な公演先／幼稚園、保育園、小学校、中学校、おやこ劇場・子ども劇場、子ども会、学童保育所、寺、会館など。

その他の活動／人形製作、人形劇・人形作りの指導、短大講師など。

受賞歴／1984年度 子どもの文化賞、1987年度 名古屋市芸術奨励賞、1994年 第9回パチンコ大衆文化賞、2008年度 愛知県芸術文化選奨文化賞

## ぼくの夢・わたしの夢

### I have a dream.

「私、アナウンサーになるっ！」

この夢を持ってはや6年。小学校のころにアナウンサーに憧れ、いつの間にか中学も卒業し、高校に入学して、もう5ヶ月が経つ。今、私は大きな壁にぶち当たっている…。

文理選択。それは自分の将来を決める、大切な選択だ。だから最近、自分が本当にやりたいことを探している日々だ。

本当にやりたいこととは何か。考えていると頭のなかにいくつかの将来の自分の姿が浮かんだ。アナウンサーになるために日々努力している自分。人類などの生命誕生や、宇宙の知られざる世界を大学で研究している自分。動物の生理や病態、食肉の食品衛生など、動物と人を支える獣医師の自分。想像することはかんたんで楽しそうとすることができる。しかし、現実はその甘くない。現に今、自分の前には大きな壁がある。もし、アナウンサーになるとしたら、文系の方が良い。逆に獣医になりたければ理系だ。まった

く真逆な夢を持っている。やりたいことをすべてやることができれば、問題ないが、それはかなりの確率で不可能に近い。今、高1でこんなにも将来のことに悩むのだから、現実には、甘くないのだ。だが、甘くない現実と、想像でしかない自分を覆すことができるのは自分しかいない。だから、私はあきらめない！

今回、夢についての作文を書くことは、夢を考えるととても良い機会だったと思う。

もし選択を間違えてしまったとしても、もう一度、一から考えればよい。まだまだ先は長いから。人生は一度しかないからこそ、たくさん考えて、苦勞してから、最高でやりがいのある夢をつかまえたい。仕事だけでなく、自分の家族、私生活でも、自分が一生を終えるとき…

「最高すぎる一生だった」と。それが、私の夢であり、人生最大の目標である。

(ペンネーム ケメママ)

### My dream is …

私の夢は何だろう。小さいころは双子の姉とレストランを経営するのが夢だった。今思えば、料理もできない私には無理やりすぎる。でも、何も考えずに、ただなりたい一心で描いた自分の夢だったんだろう。すごいすきではないか！今の私は、たくさんごちゃごちゃ考えて、なりたいものが目にも頭にも明確には映らない。小さいころみたいに、まだ大きな夢を持って今なら叶うはずなのに、大きな夢、いや小さな夢さえも持っていない。本当に何になりたいんだろう…。

そんな風に考えながら過ごしてきて、気付いたら高校生になっていた。ただ何も気持ちに変化がなかったと言ったらウソになる。なぜなら、自分には本当になりたいものが、頭にも目にも映ったからである。何になりたいかはまだ秘密だけど、心の変化は、いつかくる。だから、将来何になるかは急いで決めるものではない。

この作文を書くことがきっかけで気付いた自分。また少し、成長できた気がする。

今の夢、それは成長することだ！

(ペンネーム めんどくしゅ)

## 防災施設インタビュー（岡崎市防災危機管理課）

新コーナーとなる『防災施設インタビュー』では、あおぞら編集委員が防災施設を訪問して、防災に関する疑問・質問など、被災者の知りたいことを聞いてきて紹介していきます。

愛知県西三河地方の主要都市である岡崎市。岡崎市役所東庁舎玄関を入ると、防災展示コーナーが常設されています。防災危機管理課を訪ね、防災対策について桑山課長にお話をうかがいました。岡崎市では、3.11直後から個別訪問を始め、市内施設を無料で利用できる「With card」を発行し、5年半経った今でも福祉総務課と共に被災者に寄り添った支援を継続しています。当時の担当者によれば、平成20年の集中豪雨による水害の被災経験が今回の支援継続に活かされているそうです。

岡崎市では南海トラフ巨大地震を想定し、さまざまな防災対策がなされています。平成27年3月発行「防災ガイドブック※」には地震編と風水害編、そして資料編として過去の風水害の記録が掲載されています。先の昭和20年1月に発生した三河地震の被害等については、情報統制の時期のため詳細は残されていないそうです。

**指定避難所**：避難所とされている公共施設の耐震工事はすべて完了しています。

**耐震対策**：岡崎市では木造住宅の無料耐震診断、耐震補強工事の補助、避難行動要支援者家具転倒防止金具の無料取付けを行っています。



<岡崎市役所東庁舎>

**情報提供**：おかざき防災緊急メール「防災くん」に登録すると、地震・大雨・竜巻等の防災気象情報、避難勧告、浸水警報装置等の情報が届きます。また、コミュニティFMの電波を利用した「防災ラジオ」（一部受信できない地域あり）、ケーブルテレビなどさまざまな方法で情報が提供されるので、自分にあった方法で情報の収集をすることができます。

**「自助・共助・公助」**：行政の支援には限度があります。まずは自分で身を守ること。そして、ともに助け合う家族や近所の住人。非常食の配送にも時間がかかり、食料品を扱うスーパーは営業まで3日を要すと言われています。特に災害弱者となる可能性がある小さなお子さんのいる家庭では、もう一度、避難経路、家庭内備蓄品（できれば1週間分）を確認してみませんか？

岡崎市で地震が発生した場合、津波の心配はないものの碧南市、高浜市、蒲郡市等、津波の被害が想定される地域からの避難者を受け入れることも考えられます。熊本や鳥取とも状況は異なるため予想が付きません。

「防災は、まちづくりのきっかけになる」と桑山課長は力説します。まずは、お住まいの地域の特色を知ることが、ご自分や家族の生かされている「命」をさらに生かすことにつながります。

（あおぞら編集委員 小松恵利子）



※ 防災ガイドブック

岡崎市役所市政情報コーナー（西庁舎1階）、防災危機管理課（東庁舎2階）、各支所で配布しています。

## スタッフ紹介 ～ 浜田ゆう ～

支援センターのスタッフになった経緯や今の思いを紹介していきます。  
第19回はスタッフの浜田ゆう（レスキューストックヤード事務局長）です。

こんにちは。私が直接関わってきたのは全体交流会で、200名を超える方が参加された2012年からです。とは言え、司会（サブでしたが）に抜擢されたり、迷子を探したりと、毎年、汗だくで走り回っているの、なかなかじっくりお話を聞く機会は少ないです。

そんな中、レスキューストックヤードの久屋大通の事務所で開かれている交流会「パッチワーク教室」の参加者には、顔を覚えていただいている、おしゃべりに加えていただくこともあります。お話をしていると、「体験も、気持ちも、環境も色々だなあ」（当たり前なのですが）と感じます。そして、ひとりひとりに寄り添うということの大切さを改めて、かみしめます。



## 支援センターからのお知らせ

### <編集後記>

- ★バイト先の幼稚園の作品展、子どもたちの作品にあふれる夢や物語から元気もらいました。(T.N)
- ★[新] CSR 検定3級試験に合格しました。この試験ではCSRの定義が『社会的責任』から『社会対応力』へ再定義されていて、CSRの基礎を理解することができました。(J.I)
- ★ランチに行く途中、銀杏並木のすばらしい黄葉が樹上にも、歩道上にも輝いていました！(K.T)
- ★今年の11月で囲碁クラブが50回となりました。徐々に参加者が減少していますが、日本棋院中部総本部様が、変わらずにお部屋を提供してくださっています。心からお礼を申し上げます。(H.T)
- ★先日、我が家の解体が終わりました。あれは瓦礫だったのでしょうか…、財産だったのでしょうか…？(H.I)
- ★11月22日(火)の余震で、大きな被害はなかったものの小さな余震が続きます。どうぞ無事に新年を迎えられますように。(E.K)
- ★皆さまナゴヤ歌舞伎をご存知でしょうか。円頓寺商店街、四間道界限ぶらり歩くと、ナゴヤ座の観劇がとても楽しいです！オススメですよ！(Y.S)
- ★一宮の交流会に参加しました。ボランティアの方々に悩みを聞いていただいて心が軽くなり、前向きになりました。時にはどっぷりと人に甘えることが必要だなと改めて感じました。こういう機会を継続していただいていることがありがたいです。(Y.Y)
- ★風邪気味で甘酒を飲んで寝たら、肌の調子が良い事に気付きました。(A.O)

- 1月のイベントの詳細は定期便に同封のチラシをご覧ください。皆さんのご参加をお待ちしております。

あおぞらに関する  
ご意見ご感想はこちら



〒460-0001  
名古屋市中区三の丸3-2-1  
愛知県東大手庁舎1階  
愛知県被災者支援センター  
TEL : 052-954-6722  
FAX : 052-954-6993  
Mail : aozora@aichi-shien.net